

1 計画策定にあたって

(1) 計画策定の背景・目的

市内には、時計台をはじめ歴史的な建造物が文化財として保存・活用されていますが、これらの歴史的資産はその都市を特徴づける資源であり、これらを保存し活用することが、観光客はもとより、市民自らが誇りと愛着を持てる、将来的に持続可能な活力ある都市の基礎となります。

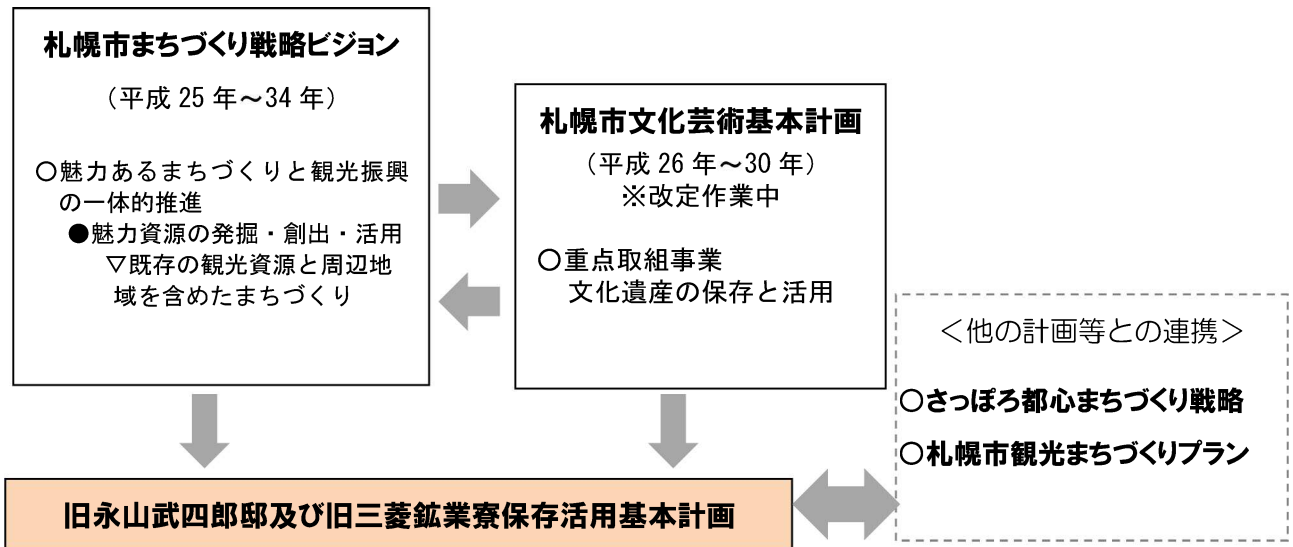
このような視点に立ち、50年後、100年後の将来も見据えて、時計台などに続く魅力ある歴史的資産の掘り起こしや、これらを保存・活用する事業が求められています。

上述の背景を踏まえ、北海道指定有形文化財である旧永山武四郎邸及びこれに付設する旧三菱鉱業寮（以下「両施設」という。）について、札幌市において掲げている以下の計画等に位置付けられるものとして、新たな保存・活用事業を展開していくこととしたところです。

- 札幌市を取り巻く社会経済情勢の大きな変化に対応するための新たなまちづくりの指針として平成25年10月に策定した「札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）」において、「魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」を図るため、「魅力資源の発掘・創出・活用」に取り組む一環として、「既存の観光資源（歴史的建造物等）と周辺地域を含めたまちづくり」を行うことを掲げています。
- 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための指針として現在改定作業を進めている「札幌市文化芸術基本計画」において、今後の文化芸術の振興施策の重点取組事業として「文化遺産の保存と活用」を行うことを掲げ、貴重な文化遺産を大切に保存し、まちづくりに積極的に活用していくこととしています。
- 都心の目指すべき将来像と、それを実現するための基本的な方針、重点的に展開すべき取組を明示することで、多様な関係主体が協働して一体的にまちづくりを行っていくための指針とした「さっぽろ都心まちづくり戦略」において、旧永山武四郎邸が設置されている創成東地区の将来像を、「職」・「住」・「遊」近接の歩いて暮らせる創造性豊かなまちとすることを掲げ、歴史性を感じるストックを有効に活用し、古さと新しさが調和したまちを目指すこととしています。
- 札幌の特性を備えた魅力資源を十分に活用し、市民や来訪者にとって魅力的なまちづくりを推進する取組などを提示した「札幌市観光まちづくりプラン」において、当該事業を「特色あるまちづくりの歴史を生かした歴史文化観光の創出」の一つとして位置付けています。

本基本計画は、上述の状況を鑑み、両施設を貴重な歴史的資産として後世に引き継いでいくとともに、新たな歴史観光文化スポットとしての魅力を向上させることを目指し、耐震診断のほか保存修理及び活用整備のための基本的な方針を示すことを目的とします。

【計画の位置づけ】



(2) 検討経緯

両施設の保存修理工事及び活用整備工事を行うに当たり、耐震補強を含む保存修理の方法や活用整備計画の作成等について専門的な立場からの意見を聴くため、旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用等検討委員会を設置して検討を行っています。

(設置期間：平成25年6月5日から平成27年3月31日まで)

【委員名簿】

氏名 (敬称略)	分野	所属等
◎委員長 小澤 丈夫	空間計画	北海道大学大学院工学研究院 准教授 札幌市文化財保護審議会委員
○副委員長 平井 卓郎	木造建築構造	北海道大学大学院農学研究院 特任教授
角 幸博	文化財建造物	北海道大学名誉教授 札幌市文化財保護審議会委員
東田 秀美	歴史的建造物活用	NPO法人「旧小熊邸倶楽部」代表
杉本 雅章		札幌市観光文化局文化部長 (H25.6～H26.3)
川上 佳津仁		札幌市観光文化局文化部長 (H26.4～)

(オブザーバー)

所属等
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ
札幌市都市局建築部
札幌市中央区土木部